

## 接着重ね梁の使用事例

### 1 はじめに

ここ数年来、県下では上伊那地域、松本地域を中心に接着重ね梁を使用した建築物が多く見られるようになってきました。両地域に多いのは製造者が両地域所在の上伊那森林組合と奈川村木工企業組合だけであることが関係していると思われます。両組合は信州木材製品認証センターの接着重ね梁の認証工場となっています。

最近、最も多くの事例が集中する上伊那地域の公共施設を調査する機会がありましたので、その一端を紹介します。松本地域も近日中に調査予定で、民間での使用事例もあります。

### 2 接着重ね梁の名称について

従来は「接着重ね梁」のことを「合せ梁」、「合せ貼り(軸)材」、「接着積層材」等と表現しており、特に「合せ梁」の呼称が定着してしまった感があります。実は、建築用語としての「合せ梁」はこれとは異なる概念のもので、「接着重ね梁」が妥当な呼称であると判明しました。皆様を混乱させてしまいましたが、今後は「接着重ね梁」に統一します。

また、通称・愛称について説明しますと、2本重ねの梁をツインビーム(Twin Beam)、3本重ねの梁をトリプルビーム(Triple Beam)、4本束ねの柱をテトラポール(Tetra Pole)と呼ぶことにしています。トリプルに対応するのはダブルであるからツインビームよりダブルビーム(Double Beam)ではないのかとの論議もありましたが、既に定着しており、語感も良い現行通りとしました。

接着重ね梁の製造方法や強度性能、特徴等については、既に当センターから発行済みの「技術情報」No. 107, 108 や「業務報告」等で発表されていますので、ここでは説明は省きます。

### 3 接着重ね梁を利用した建築物の事例紹介

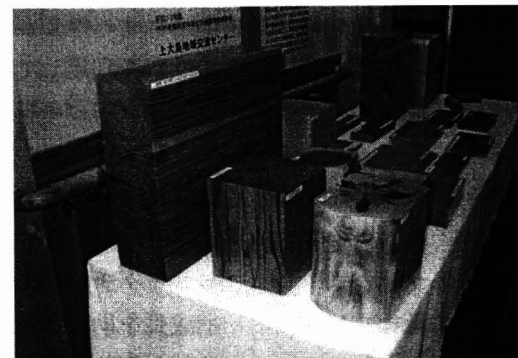
上伊那地域で接着重ね梁が使用されるようになったのは平成13年度頃からで、一部分に試行的に使用した例がほとんどです。ここでは、代表的事例を5箇所選び紹介します。

#### (1)伊那市「小澤地域交流センター」



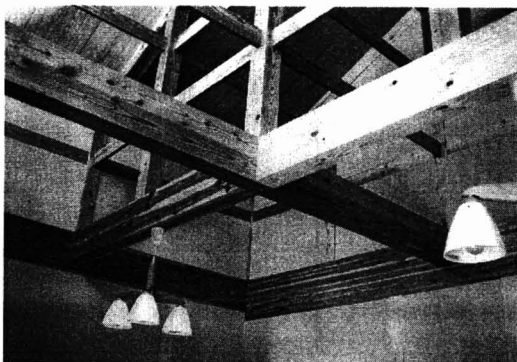
上：全景(ポーチの門柱は9本のカラマツ角材から成る柱、上の梁はトリプルビーム)  
下：玄関ロビーのトリプルビーム

#### (2)伊那市「上大島地域交流センター」



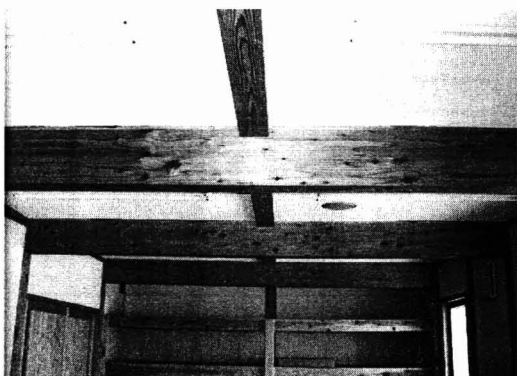
上：全景  
下：展示コーナー(トリプルビーム他)

(3) 駒ヶ根市「赤須町地域交流センター」



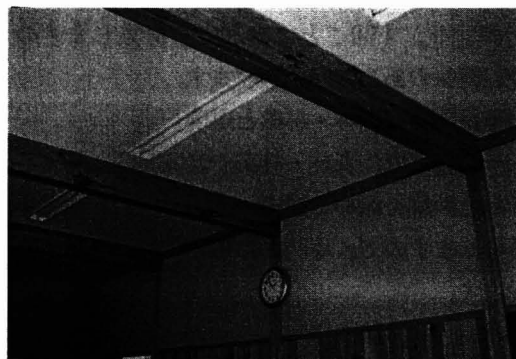
上：中央アルプスを背に全景  
下：交差するカラマツのツインビームとアカマツのツインビーム(手前右・白く見える)

(4) 上伊那郡高遠町「三義交流館 やまびこ」



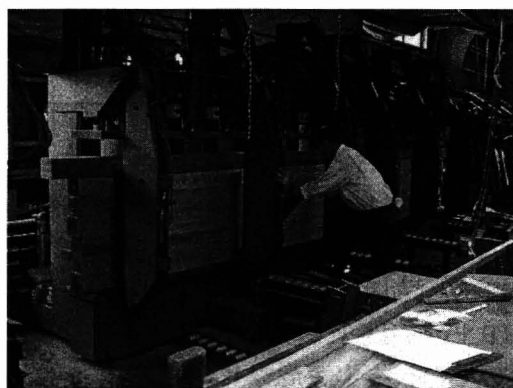
上：全景(旧小学校跡地に設置。窓は木製サッシ)  
下：トリプルビームを使用

(5) 上伊那郡飯島町「新屋敷地域交流センター」



上：玄関付近(梁には“天カラ”使用)  
下：アカマツのツインビーム

(6) 接着重ね梁の製造の様子



上：事例の建物で使用した接着重ね梁は、上伊那森林組合伊南工場で作られました。

#### 4 おわりに

この他、まだまだ多くの使用事例がありますが、残念ながら紙面の制約上紹介できません。

調査を通じて感じたことは、部材の適正な乾燥の重要性です。

最後に、本調査に御協力いただいた上伊那地方事務所林務課、関係市町村、各地区の役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

(木材部 伊東嘉文)